

B 13 乳幼児の成長に伴う身体形態の変化 — 足部について —
青山学院女短大 磯谷藤枝 横浜国大教育 増田順子
都立立川短大 ○林 隆子

目的 乳幼児服の設計を目的として、乳幼児の身体計測を行った。今回は、歩行を始める時期、すなわち、乳児期から幼児期へ移行する年令から6才に至る男女児の足部の成長について考察した。

方法 都内の保育園存らびに保健所で計測した0才2か月から6才5か月までの男女児980名(男児497名、女児483名)の身体計測値について検討した。用いた項目は、身長、体重、股高、前上腸骨棘高、膝関節高、頭囲、乳頭位胸囲、腰囲、足長、足幅、足囲、甲の高さ、下腿最小囲の13項目である。まず全13項目の成長量存らびに身長と体重に対する各項目の相対成長について概観し、次に足部4項目存らびに下腿最小囲について検討した。

結果 0才から6才までの身長他各項目の成長は、男女児いおれも著しい。特に0才から2.5才までの平均成長量は、その後の2.5才から6.5才までの4年間の成長量にほぼ匹敵する。身長・体重に対するアロメトリーは、頭囲、足幅、甲の高さは2相、その他の項目は3相で示される。また、身長に対する前上腸骨棘高、股高、膝関節高、体重の相対成長係数 α は男女児とも1.0以上の優成長を示し、対体重の α は全項目1.0以下の劣成長を示す。

足部4項目存らびに下腿最小囲は、男女児共2.5才までの成長が、他の項目に比べて特に著しい。足幅、甲の高さのアロメトリーは、身長・体重のいおれに対しても2相で示され、その変移点は、男女児とも身長ではおよそ88cm、体重10.7kg下、その年令は、ほぼ2.5才にあたる。また、足長、足囲、下腿最小囲は、男女児とも身長・体重のいおれに対しても3相で示される。